

東日本大震災の概況

平成23年3月11日(金)午後2時46分、東日本大震災が発生しました。東日本を中心に大きな揺れが約3分間続き、電気、ガス、道路など社会的なインフラが大きな被害を受けました。地震により発生した巨大津波により、県内では1万人を超える死者・行方不明者が生じることになりました。沿岸地域では、従来一定の津波対策を行ってききましたが、今回の巨大津波を防ぐことはできず、広範囲にわたり壊滅的な被害を受けました。最大32万人を超える被災者が避難所での生活を余儀なくされ、今なおその影響が続いています。また、東京電力福島第一原子力発電所が津波で被災し、宮城県においても、放射能測定や各種検査などの対応に追われました。



発生日時	平成23年3月11日(金) 14時46分
発生場所	三陸沖 (北緯38.1度、東経142.5度) ※牡鹿半島の東約130km付近
震源の深さ	24km
最大震度	震度7(栗原市)
規模	マグニチュード9.0



被害状況

(1) 人的被害

死者 10,558 人
行方不明者 1,232 人
死者のうち925人が関連死
全国の被害者総数の約5割に相当

(2) 住家被害

全壊 83,001 棟
半壊 155,129 棟
全国の被害総数の約6割に相当

(3) 避難の状況

平成23年12月30日
県内の全避難所が閉鎖

ピーク時
(平成23年3月14日)
1,183施設(35市町村)
320,885人

プレハブ仮設住宅入居者 11,616 人
民間賃貸借上住宅入居者 9,129 人
県外避難者 3,256 人

(4) ライフライン関係被害

平成23年12月11日
県内のライフラインが全て復旧(津波で流出した地域を除く)

ピーク時	停電 1,545,494 戸
	給水支障 35 市町村
	ガス供給支障 13 市町

(7) 被害額の概要

交通関係	103 億円	鉄道、バス、離島航路 ※東日本旅客鉄道分を含みません。
ライフライン施設	2,394 億円	電気、水道、都市ガス、通信・放送施設
保健医療・福祉関係施設	509 億円	医療機関、社会福祉施設など
建築物(住宅関係)	5 兆 0,904 億円	
民間施設など	9,906 億円	工業、商業、自動車・船舶など
農林水産関係	1 兆 2,952 億円	農業、畜産業、林業、水産業など
公共土木・交通基盤施設	1 兆 2,568 億円	道路、河川、海岸、港湾、下水道など
文教施設	2,125 億円	学校、社会教育施設、文化財施設など
廃棄物処理・し尿処理施設	54 億円	
その他の公共施設など	761 億円	観光施設、消防・警察関係施設、庁舎など
計	9 兆 2,277 億円	※端数処理の関係上、合計が一致しない場合があります。

(5) 浸水面積

浸水面積 327 km²
青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県合計の浸水面積561 km²の約6割、東京都23区の面積の半分以上に相当

(6) 地盤沈下

海拔0m以下の面積 56 km²
震災後増加割合3.4倍

